

「 「自分だけは」ではなく「自分から」 」

岡山県 岡山市立芳泉小学校 6年 ^{にしまき}西牧 ^{ともみ}智美

今年の夏、私の住む岡山県で、大きな豪雨災害が起きました。特に、倉敷市真備町では、3千戸余りの家が浸水しました。加えて、土砂災害もたくさん起きました。私の家は被害がありませんでしたが、私のしんせきは、真備町に住んでいるので、家の1階まで浸水するほどの被害がありました。また、私の父は、休みの日もボランティアで、被害を受けた人の役に立とうとしていました。たった数日の雨で、誰も想像していないような大きな浸水や土砂災害が起き、たくさんの亡くなられた人やけがをした人がいたのは、なぜでしょうか。

まず、これだけ大きい災害になるとは思わず、様子を見て避難はしなくてもよいと判断し、避難ができなかった人がたくさんいたからではないかと私は思います。岡山県は災害が少なく、災害を経験したことがない人が多いので、「自分は大丈夫だ。」という気持ちが強くなり、にげるのがおくれたのだと思います。だから、テレビやラジオから土砂災害警戒情報を聞いた時、まず「自分から」すぐに避難ができるように準備をすることが、防止につながると考えました。

さて、私はお盆休みに広島県に行きました。広島県へ向かう時に、高速道路を通って行きました。少し渋滞していたので、ふと周りを見ると、あちこちで土砂くずれのあとが目に入りました。私から見て左側の土砂がくずれていて、木がたくさん倒れて、大きな石がいくつも転がっていました。よく見ると、反対側の道路がまだ土でよごれていて、反対側まで土砂が流れこんでいたことも分かりました。まだ修復作業も行われていました。私はそれを見て、土砂くずれによる被害の大きさを知って、改めておそろしいと思いました。

土砂災害が起きると、どんなことが起こるのかなど、起こる前から情報を知っておくことも大切です。例えば、にわか雨などの急な強い雨や何日か続く雨が降ると起こりやすくなり、突発的に起こるものだという事などです。

「自分から」まず取り組むために、家族ともしものことを話し合いました。その中で、もし一人だった時に災害が起こったら、一人でも避難しなければいけないということを知って、自分はどうかな不安になりました。

私は、土砂災害の経験はありませんが、しんせきが被害にあったり、父がボランティアをしているのを見たり、テレビで状況を知ったりして、土砂災害などの災害がもたらす被害は、おそろしいものだという事を身近で感じました。だから、このようなことが起こらないように、早めに避難をしたり、情報をあらかじめ知っておいたりするなど、身近なところでも自分の命が守れるような勇気ある行動を率先してとれるようにしていきます。